

「新型コロナウイルスに関する教育現場の意見交流の場」の記録

— meikyo-cov メーリングリスト, ZOOM 交流会を通して —

教育会副事務局長 和田 格 (資格課程事務長)

はじめに

私が住んでいるURの建物の1階に保育園が併設されています。毎日子どもの元気な声が聞こえて楽しい環境です。またベランダからはブランコや砂場がある公園も眺めることができ、そこでも子どもたちが遊んでいます。

2020年3月、この普通の光景がぱったりとなくなりました。安倍首相(当時)が同年2月27日に全国一斉休校を要請したからです。4月7日には一度目の緊急事態宣言が発令され、公園のブランコや砂場にも黄色と黒のテープが張られ、遊具も使えない状況になりました。保育園、幼稚園、学校などの行き場のなくなった子どもたちが屋外の公園でさえも遊べなくなっていました。ニュースでも休校となった学校現場の様子が流れ、現場で奮闘されている明治大学卒業の先生方のご苦勞が感じられました。

企画, 案内, 発足

全国一斉休校が要請されたころ、事務局提案として「明治大学教育会で横連携の場をメールなどのオンライン上で構築してはどうだろうか」と役員の皆さんにご相談し、「役員会の緊急提案」として開設のはこびとなりました。リアルの会合なしにメール、電話を使って1週間で決定していただきました。

このグループ用のメーリングリスト(meikyo-cov メーリングリスト)を用意し、3月7日(土)に明治大学教育会の既存のメーリングリストに案内をし、参加希望の方を募りました。そして3月9日(月)より運用開始しました。開始当初は一般会員:24名、現役員:6名、現事務局員:5名の合計35名でスタートしました。本稿を執筆している2021年1月末は41名の方が登録されています。

情報交換

メーリングリストには現場の先生から状況のお知らせが届けられました。現場の様子が伝わってきました。急に休校となり子どもとしばらくの別れになったこと、制限のある中、卒業式や終業式を工夫したこと、学年末の試験の時期で成績判定にも困ったこと、休校中に少しでも学習を進めるためにオンライン授業の試行錯誤を始めたこと、等々。明治大学卒業の先生方の横連携で少しはお力になれたのではと感じました。

また、ある先生が自己紹介で現在の学校の名前を書かれたところ、なんとメーリングリストに参加されていた別の先生が以前その学校の校長を勤められていたことが分かりました。これこそ明治大学教育会の醍醐味です。

年末 ZOOM 交流会の実施

2020 年度の教育会の総会，講演会，分科会（2020 年 11 月 14 日）はリアルでの開催が見送られ総会のみ ZOOM での開催になっていました。その ZOOM の場で，日本全国の会員が集い大きなストレスもなくやりとりができることがわかりました。総会のあとの ZOOM 懇談の場では，ZOOM を使ったコミュニケーションについて希望が出されました。

この成功体験もあり，コロナに明け暮れた一年を振り返るために現場の先生方と ZOOM で忘年ミーティングをする企画を立てました。年も押し迫った 12 月 26 日（土）に開催しました。多くの先生方が年末の土曜日にもかかわらず参加してくださいました。別紙にその報告を掲載します。（この 12 月 26 日の忘年ミーティングで精神保健の専門の先生が参加されており，その先生にお話しを聞く企画も計画され 2021 年 1 月 24 日（日）に開催されました。その記録はこの紀要の次号に収録予定です。）

最後に

本稿は「形式自由のエッセー」と承りましたので，最後にこの 1 年の所感を書かせていただきます。私個人の感想です。

今（2021 年 2 月）では多分もう信じている人はいないと思いますが，2020 年 2 月，コロナが不気味に拡大しているときにまことしやかに流布された情報がありました。

「コロナウイルスには耐熱性がなく 26～27 度のお湯を飲めば予防できる。」という情報です。温度については 36 度や 56 度というものもあったようです。私も友人から LINE で受け取りました。「26 度はお湯ではないだろう！」と思いには信じなかったのですが，情報が少なくそして錯綜しているあの頃，「医療関係者からの話」とか「研究者からの話」という一文がついているだけで多くの人がだまされました。

今でも形を変え様々な情報が飛び交っています。「正確な知識を」と言われますが，何が正確かさえも様々な方が発信しているので，素人の我々には判断が難しいです。「ポジショントーク」で主張をされているのかどうかも判別が難しいです。このように日々降り注ぐ情報を賢く受け止めるスキルを「メディアリテラシー」と言いますが，これからはこのメディアリテラシーについて小中高の段階から身に着ける必要があると感じます。

現場の先生の賢明な判断の一助になるよう，これからもこの明治大学教育会の横連携が役に立つことをお祈りします。

明治大学教育会

「新型コロナウイルスに関する教育現場の意見交流の場」第1回ZOOM交流会(記録)

日 時：2020年12月26日(土) 18:00～19:55

場 所：ZOOMにて

参加者：田中会長，駒木副会長，高野事務局長，関根副事務局長，飯塚事務局員，菅原事務局員，藤井事務局員，櫻井会員，藤本会員，高木会員，根本会員，田中会員，和田副事務局長
以上13名

進 行：和田副事務局長(資格課程事務長)

記 録

1 自己紹介を行いました。

若い先生から定年後海外で幼稚園園長をなさっている先生まで，活躍される場所も東京の先生，地方の先生，海外の先生，様々なプロフィールの方々でした。

2 その後情報交換を行いました。

まずは自己紹介の中で，現状一番大変な状況を語られた福島在勤の会員の様子を聞きました。

春の休校時はまだICT化が進んでいなくてプリント配布，電話確認でのいざことななどが紹介されました。

都内私立学校で全教員のICTを用いた授業準備で奮闘した紹介がありました。その学校は入試前3日間を学校閉鎖にしてコロナ対応する予定であることも紹介されました。

養護教員の会員からはメンタルサポートの面から事例を聞きました。別の先生からは休校後の生徒の登校の様子を見て，生徒は学校が好きなのがあたためて分かった，イベントを企画したら本当に登校を喜んでいたとのこと。メンタルサポートの重要性が分かりました。

精神保健が専門の会員からは，コロナのきちとした予防体制が行き渡っていない，情緒的な安心感に頼っている面があるとの指摘がありました。「正しく知る」必要性が説かれました。

「自分だけ」と思ってしまう思考回路があぶない。先生もそう(不安)だよ，と寄り添う必要があるとアドバイスいただきました。

シンガポール在勤の会員から状況の報告がありました。幼稚園生向けに動画の手品コンテンツなどを作ってYouTubeで流したりしたそうです。やはりシンガポールは規制が強いそうです。学校再開前に全校種6万人の教職員のPCR検査を一気に実施したそうです。

生徒が発熱で休んだりした場合の聞き取りなどが大変との報告がありました。陽性者発生時のために、座席表を教育委員会に提出したりしているそうです。濃厚接触の生徒の家に家庭訪問でPCRキットを配布している学校もあるとのことでした。

ニュースで先生側のメンタル負荷で休職が増えているとのこと、現場ではどうか？との問いに、管理職とともに現場の先生を見守っている養護教員の会員の発言がありました。専門家と管理職がしっかりと現場の教員を見守ることが必要だと感じました。

田中会長よりこの状況で家計急変の家庭が多いだろう、その影響でせつぱつまっている子どもへの対応はどうしているか？との質問がありました。

高卒就職、専門学校進学 of 生徒もいて困窮の様子が見える、生徒間の金銭感覚の違いで苦しい生徒も。教育費無償制度のひずみも垣間見える。オンライン化になるとさらに負担増である。

別の会員は貧しい家庭のこどもサポートの経験を話してくれました。学校でさりげなく衣服の洗濯などのフォローをした。2極化の問題が見える。社会主義 VS 資本主義の問題、ネットの書き込みなどを見ると心配、民主主義の危機に思える。

公衆衛生のこと

コロナ対応の方法が学校によってマチマチ。公衆衛生の専門でもなく迷っている。体温提出させている。どこまでやればいいのか明確になると嬉しい。

ある学校では、文科省→東京都→区におりてきたガイドラインにそって現場で対応している。場所場所での対応が現状のようだ。結局は全国統一ではなく、現場判断か。

家族・個人によっても反応がちがって、統一基準があるとやりやすいのだが。

保健専門の会員より。基本は手洗いである。そして手で顔口目を触らないこと。検温で安心してはだめ。この事態においてマニュアルは存在しない。基本を理解して接触、飛沫、エアロゾルの知識を持たないといけない。国が指針を出していないので、みんな疑心暗鬼になっている。各人がきちっとした知識をもって過ごすことが大切。みんなでもって考えていく必要がある。

その後、再びの参集を約束して終了としました。

◇

参加会員から感想をいただきました。

- 地域を離れ、年齢を異とし、立場も違う方が明大教育会という繋がりですとひとときの場を共有でき、新しい知識を得たり、色々考えることを実感する機会となりました。リモートは大変便利ですが、すべてリモートでなく、いつか直接顔を合わせたときに

は笑顔とともにリモートではできない情報交換ができることも本当に楽しみです。
その機会をより充実した場にするためにも、いろいろなテーマや企画で話し合う機会
を設定できることが望まれます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

○若い先生方の奮闘ぶりを伺い、大変心強く思いました。

今回の会のテーマはまさしくコロナ対応の現状報告でしたが、多岐にわたる課題が見
えてきたようです。次回のテーマが楽しみです。

様々な国で生活をし多くの若者と交流を通して感じたことは、「国家」のありようで
す。

このことを躊躇なく発言できる世界であって欲しいのですが、まだまだ先のことでし
ょうか。

○国や地域、学校種や職種も異なる先生方・先輩方に、さまざまなお話を聞かせていた
だいて、とても貴重な機会でした。

これからも日々刻々と変化していく状況の中で、自分にできることを模索し続けてい
きたいと思います。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

○今回の ZOOM 交流会で、全国の先生方とつながることができて大変有意義でした。

このように、機会がありましたらまた参加し、先生方との交流を通して学びを深めて
いきたいと思います。

○新型コロナウイルスの対策は、正解がはっきり分かっているわけではないので、先生
方それぞれが試行錯誤しながら行っていることを改めて実感しました。

一番印象的だったのは「ストレスを抱えている生徒の多くは、自分だけが特殊だと思
っている。先生方が頑張ることは大事だけれども、先生方がしっかりすればするほど、
そういう生徒達は、自分はだめだ、自分だけが特殊なんだとってしまう。だから、
生徒の気持ちに寄り添って、ストレスを抱えているのはあなただけではない、他の子
達も先生達も大変だということを伝えることが大事だ。」というお話でした。私自身
もつい、生徒の前ではいつも気丈に振る舞わなければ、とってしまうことがありま
すが、それだけが生徒のためになるわけではないと実感しました。これからは、生徒
一人ひとりとしっかり向き合いながら、生徒達の心の変化も見逃さず、生徒に寄り添
った対応をしていきたいと思います。

私の所属している学年（中3）は幸い、不登校生徒の数はそこまで多くはありません
が、学校に来られている素晴らしさも生徒達に伝えながら、不安を少しでも取り除い
ていければ、と考えています。

以 上